

～下水道のストックを最大限に活用し、電気料金の削減相当額が3億円に！！～
熊本北部浄化センターの燃料電池発電について

本県では、平成18年度から熊本北部浄化センターで下水汚泥から発生する消化ガスを利用した燃料電池発電を行っております。その発電量が平成27年6月末時点で約2,250万kwhに達し、電気料金の削減相当額が約3億円になりました。

この電力は、二酸化炭素の排出量削減といった「環境付加価値」も有するため、平成21年度から「グリーン電力価値」の売却も行っており、その金額は平成26年度までで、約5千6百万円になっています。

これらにより、燃料電池発電の建設費（地方負担分）と維持管理費相当額を賄うことになり、未利用資源を活用した発電事業として成立することが実証されました。

このような下水道のストックを最大限に活用している県流域下水道の取り組みを、広く周知し、更なるエネルギーの有効活用を図っていきます。

1 燃料電池発電について

- 下水汚泥の有効利用として、汚泥を処理する過程で発生する消化ガス（メタンガス）から取り出した水素と、空気中の酸素を燃料電池で化学反応させて行う発電。この電力は、同センターの使用電力量の約40%を賄っている。

2 グリーン電力について

- 二酸化炭素を発生させない自然エネルギーで発電された電力で、二酸化炭素の排出量削減といった「環境付加価値」を有する電力。
- 二酸化炭素削減が困難な企業等は、この「環境付加価値」を購入することにより、電力会社から購入した電力の一部をグリーン電力とみなし、イメージアップや環境対策に貢献していることを社会にアピールできる。

3 見学会について

- 夏休み期間中には、下水道浄化センター施設の見学会を開催しているため、自然エネルギーの利活用等についての見学にお越しく下さい。
なお、見学には予約が必要です。詳しくは、熊本北部浄化センター
096-245-1121にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

土木部道路都市局下水環境課

松川、森（内線番号：6202、6192）

（直通：096-333-2530）